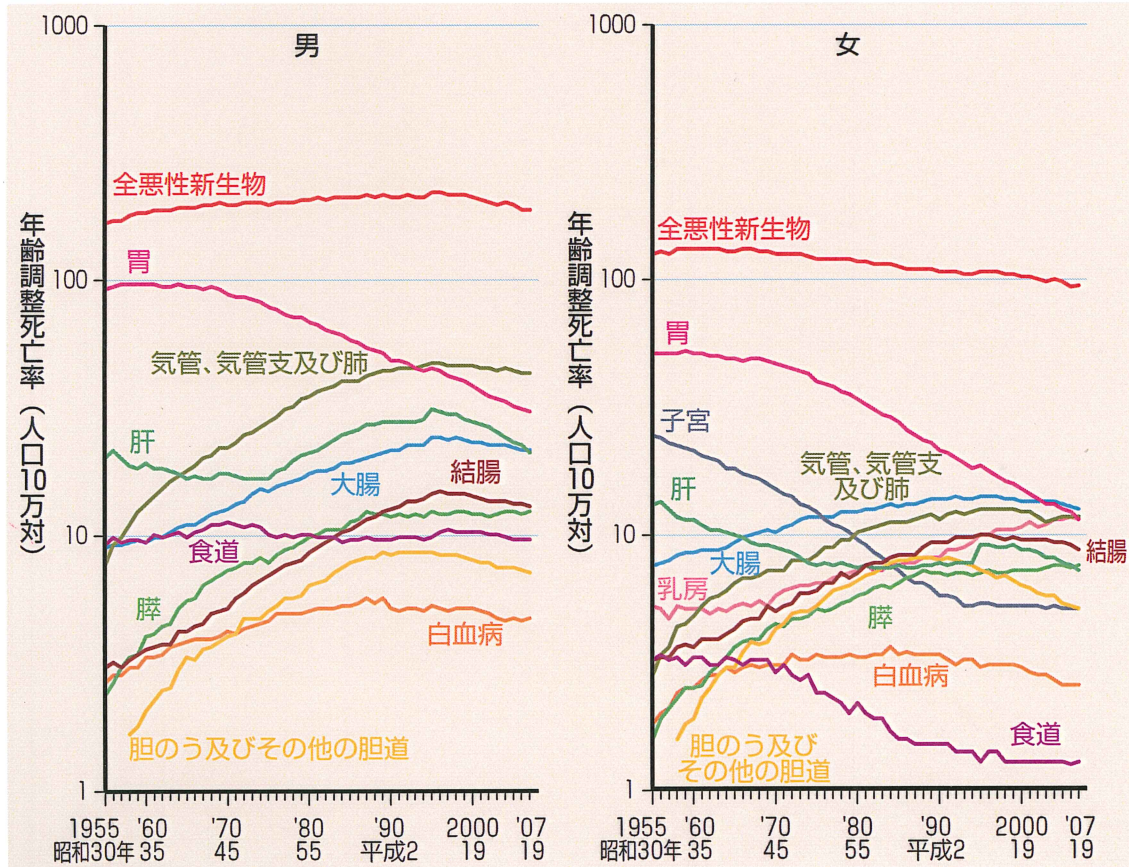


## 2-10 部位別悪性新生物死亡

## 男は肺がん、女は大腸がんが最多



資料 厚生労働省「人口動態統計」

注 年齢調整死亡率の基準人口は「昭和60年モデル人口」である。縦軸は対数目盛り。

大腸は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。ただし、昭和40年までは直腸肛門部を含む。結腸は大腸の再掲である。肝は肝及び肝内胆管である。

悪性新生物は昭和56年以来、第1位の死因であり、死亡数・粗死亡率は一貫して上昇している。平成19年の部位別死亡数は、男では肺、胃、大腸、肝の順に多く、女では大腸、肺、胃、膵、乳房、肝の順に多い。年齢調整死亡率をみると、胃は男女とも低下傾向であり、これには生活様式の変化と早期発見・治療などが要因として考えられる。大腸は男女とも昭和30年代から長期的には上昇し、近年は横ばいだが、女性では平成15年から最多部位となっている。肺は男女とも顕著に上昇し、昭和30年と比べると男では5.6倍、女では4.2倍となったが、近年は微減傾向である。女の乳房が上昇しているのに対して、子宮は低下している。胆のう及びその他の胆道の悪性新生物は、近年、男女ともやや低下傾向にある。

参照：本編49～61頁（第2編第2章 2.死亡）